

An aerial photograph of a coastal town, likely in Japan, featuring a harbor with several boats, a large building on a hill, and a backdrop of green mountains. The text is overlaid on the upper portion of the image.

令和6年度
地域の社会課題解決企業支援のための
エコシステム構築実証事業（地域実証事業）

インパクトレポート

株式会社離島キッチン

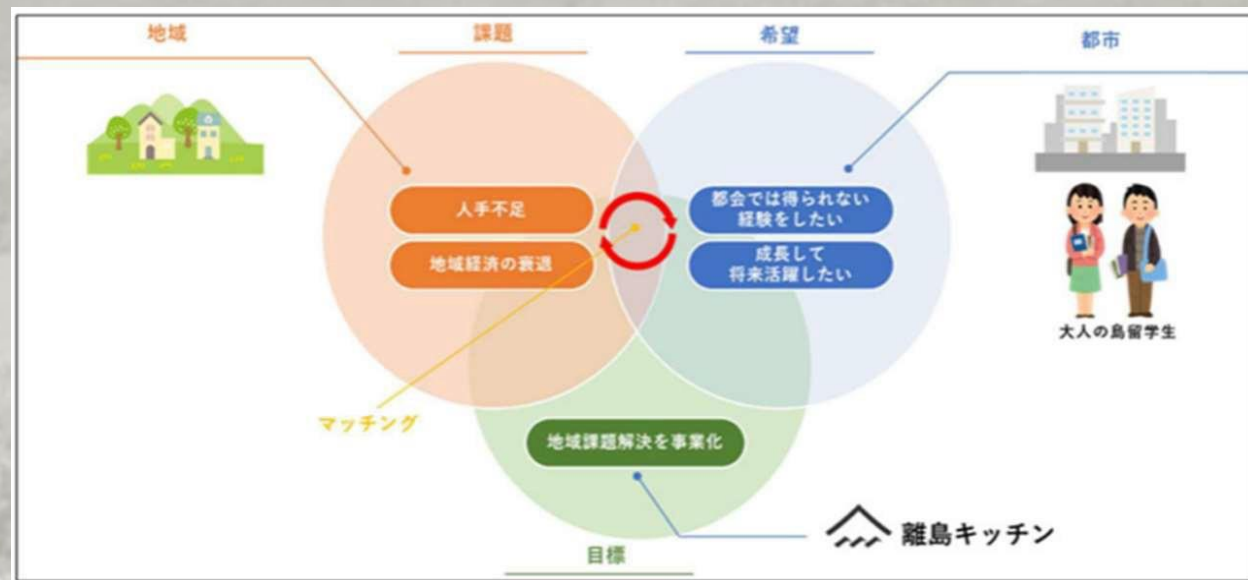
■私たちが目指す地域の姿



都市と地方の大交流時代をつくり、都市、地方ともにもっと元気に、もっと笑顔になれる地域をつくる

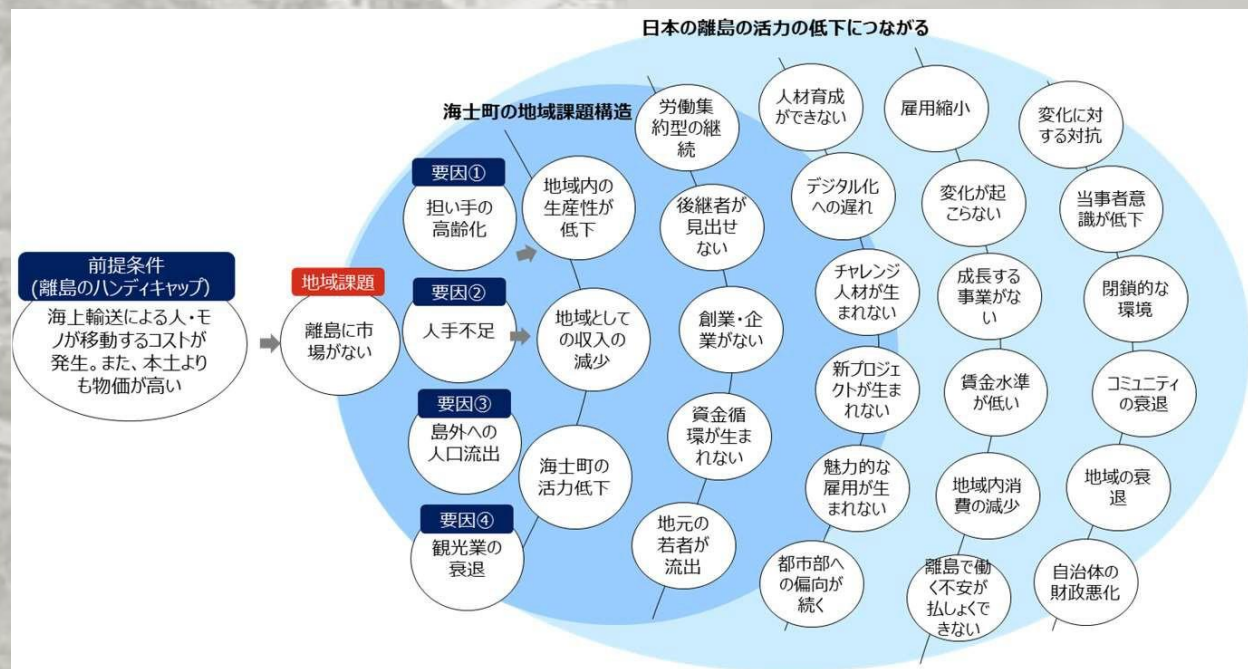
「過疎地域」と「都市に住む若者」の交流を促進させることで、地域の活気づくり、若者の未来づくりを同時に実現させ、その活動を通して地域課題を解決していく。また、若者のキャリア観を磨き、リスキングに貢献する。

■地域課題について



＜地域課題の構造分析の概要＞

- 離島に市場がない
- 市場がない離島単体で地域課題を解決しようと試行錯誤する
- 試行錯誤で課題が解決できるイメージが持てないステークホルダー
- 試行錯誤で課題解決できるイメージが持てないからその試行錯誤に生じる変化に賛同できない
- 当事者意識を持って動く人材がいない

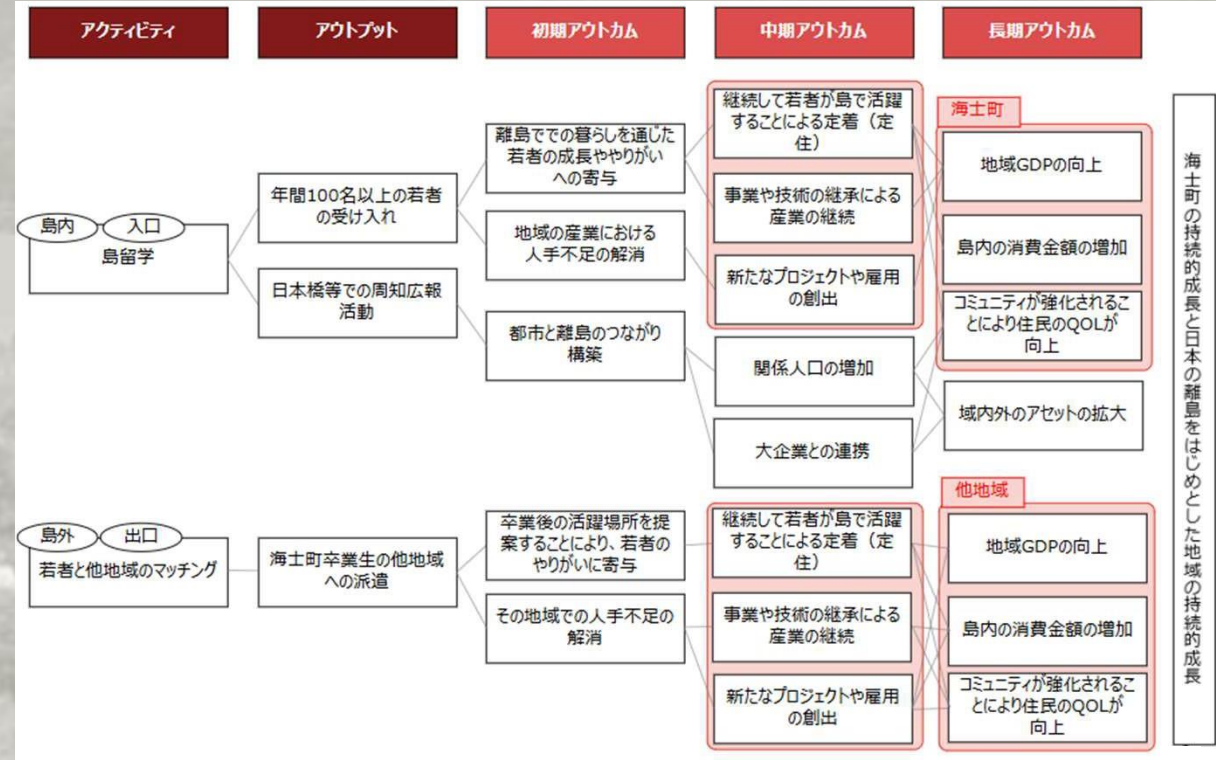


現在、取り組んでいる島留学プログラムについてアンケート調査を実施。
島留学プログラムは、多くの参加者にとって特別な経験となる一方で、課題も抽出できた。

島留学のターゲット若者への対応に関する課題

- 課題①:「清潔さ」と「住居環境」の改善が急務
- 課題②:「住人間のコミュニケーション」を活性化する仕組みが必要
- 課題③:ターゲット層に応じたプログラム設計

■インパクト戦略



<インパクトを創出していく事業の概要>

海士町をファーストペンギンとして島留学生を受入れ、留学生のリスキリングを促し、卒業後のキャリアアップ（就職・再就職）を支援。

↓
留学生の卒業後の在住地域は地域、都市部こだわらない。留学生のありたい姿に即した地域を選択してもらう支援に徹する。

↓
上記活動による留学生の消費活動の結果として、地域GDPの向上、地域住民と留学生の交流による住民のQOLの向上を実現。

↓
「地域が元気になっている」という地域住民の実感によって、当事者意識を高め、「ポジティブスパイラル」を生む。

<インパクトKPI>

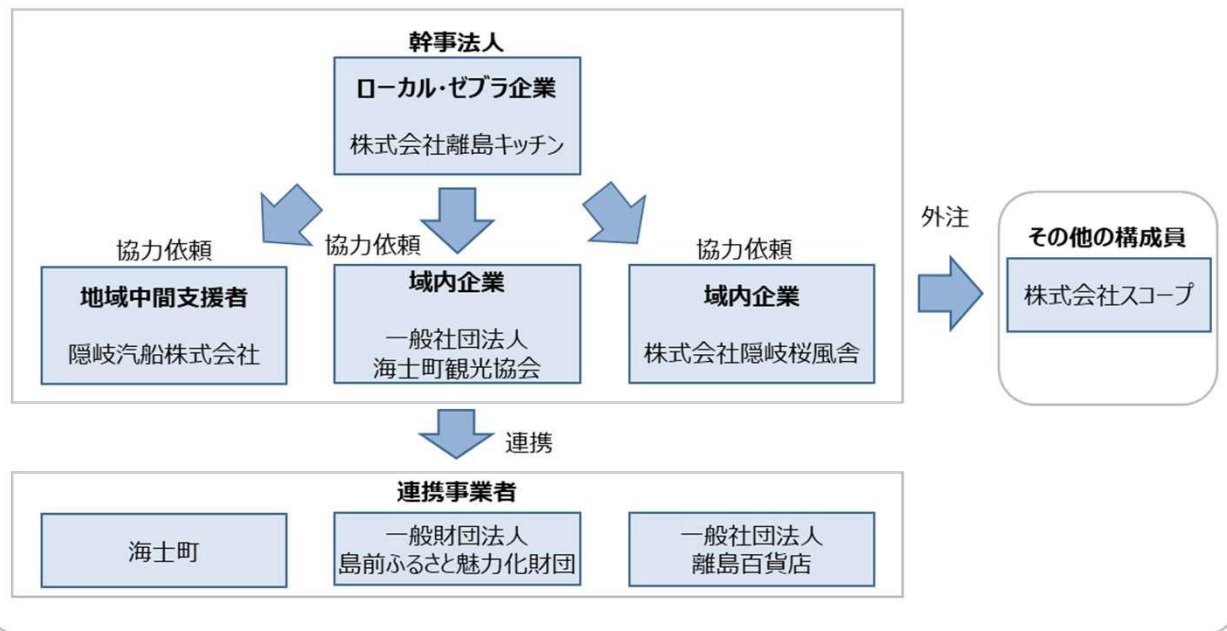
	2025年度
1:留学生受入地域数(本事業に賛同する地域の数)	… 5
2:全国での年間留学生受入れ人数	… 800
3:留学生卒業後の就職・再就職社数	… 100

<インパクトストーリー>

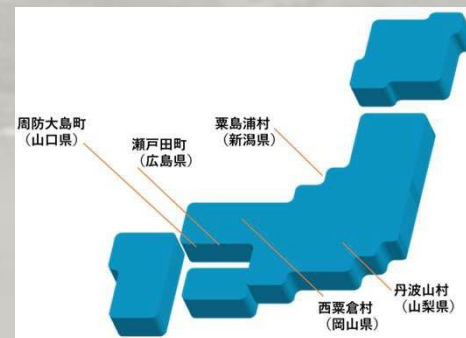
- 自分の学力に応じた普通科高校に進学し、大学も合格できる大学に進学した。大学選択では、自分の住んでいる地域から遠くなく、推薦で進学できる大学・学科を選択した。
- 大学3年生の秋から就職活動を開始し、衣食住に関わる業界で、聞いたことがある大きい会社に就職しようと数社受験して、今の会社に勤めている。
- 社会人になって、今後20年、30年のキャリアを意識し始め、今の延長線上での暮らし・働くに不安を感じ始めた。今後社会で求められているスキルを学び直したいと思っていたときに、「島留学」で都会では得られない経験、スキルが学べることを知って応募。
- 1年間の留生活後に留学運営者からの支援を受けて、再就職先を見出すつもりだ。まずは就学生活頑張るぞ。

■エコシステム

実証機関



<これまでの検討の流れ>



〈協働への呼びかけ〉
過疎・高齢化の他地域
に訪問して意見交換



〈地域の声を集める〉
島留学生を中心に、
地域住民などにアン
ケートを実施

<地域エコシステムの概要>

隠岐4島では今まで、移住促進事業や観光事業など地域創生に関連する事業に取り組んできた地域であるが、いくつかの法人が個別に事業活動しており、自社の事業フィールドに関連するテーマで地域課題解決に向けた活動をしていた。
今回、株式会社離島キッチン、一般社団法人島前ふるさと魅力化財団が取り組んできた「大人の島留学」事業が成長してきたこと、かつ、「大人の島留学」事業が様々な事業フィールドを横断的に捉えて動いていく必要があることから、地域全体のインパクトを創出していくために、上記の域内外の関係者と密に連携をとって事業推進していくことが実現できた。

<事業成果と今後の展望>

〈事業成果〉
始めて実施したアンケートによって、一部の意見や事業当事者の考えで捉えていた地域課題を客観的かつ立体的に捉えることができた。
アンケート結果を他地域に共有することで、他地域の納得感が高まり、一緒に取組みたいという意欲醸成に繋がった。

〈今後の展望〉
アンケート結果を踏まえ、留学生(若者)育成について、育成のベクトルを洗練させていく。